

正誤表

2019年8月刊行の小社『内科学書 改訂第9版』のなかに下記の誤りがありましたので、お詫びするとともに、以下のように訂正いたします(2021.09.29 更新)

■Vol.1 293 ページ 右段 17 行目

(誤) しかし、21世紀以降の医療において、患者の安全確保は最優先課題の一つとなった。

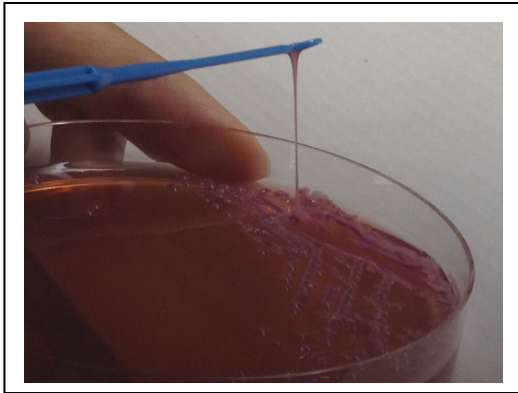
(正) 21世紀以降の医療において、患者の安全確保は最優先課題の一つとなった。

■Vol.2 52 ページ 右段 1 行目

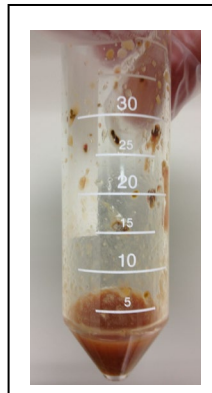
(誤) TTS-1

(正) TSST-1(toxic shock syndrome toxin1)

■Vol.2 165 ページ 図 (1) 赤痢アメーバ大腸炎患者の粘血便



(誤)



(正)

■Vol.3 451 ページ 図 (30) 下欄

(誤) fomepizole がこの酵素を抑制する治療薬であるが、日本では使用することができないので、エタノールを使用することになる。

(正) ホメピゾールがこの酵素を抑制する治療薬であり、2015年より日本でも使用可能となった。

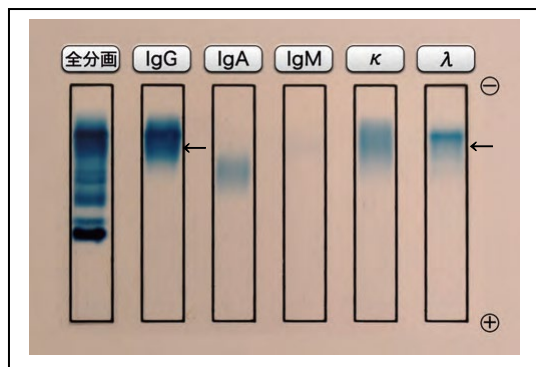
■Vol.6 169 ページ 左段 最終行

病で、まれである。

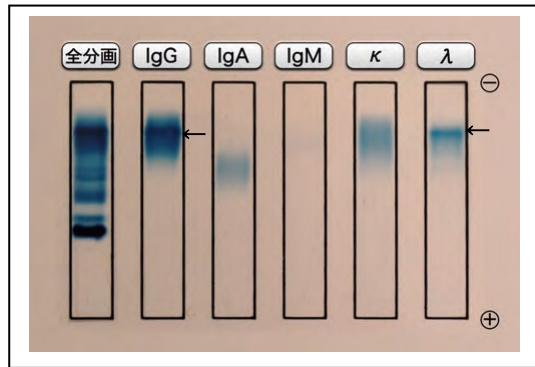
(改行して下記の一文を追加)

- 芽球がきわめて未分化で細胞系統が同定できないも

■Vol.6 199 ページ 図 (63) b 矢印の位置



(誤)



(正)

■Vol.6 575 ページ 図 (1) 「筋電図」の「最大収縮期」の項目

筋原性疾患

神経原性疾患

(誤) 運動単位の動員 (少) (late recruitment)

運動単位の動員 (多・一斉) (early recruitment)

(正) 運動単位の動員 (多・一斉) (early recruitment)

運動単位の動員 (少) (late recruitment)

株式会社 中山書店